

wellvoice

たちかわ市民討議会

自転車をいかしたまちづくり

(2011年9月11日実施)

報告書



主催: 社団法人立川青年会議所
まちのかたち創造委員会

後援: 立川市

もくじ

はじめに	1
市民討議会とは	2
市民討議会の特徴	2
開催までの経緯	3
運営の結果	5
開催前の準備	5
開催当日	7
テーマ討議の実施結果と考察	10
実施後の評価と今後の課題	14
参加者のアンケートから	14
実施後の評価と課題	15
今後の展望	17
まとめ	18
謝辞	18
資料編	19

wellvoice の名称について

市民討議会に対する知名度や内容に対する認知度がまだまだ低い現在、「公開討論会」や「市民会議」などとの区別が付かず、浸透させる上での障害となるのではとの考えから、愛称をつけようという声があがりました。いくつかの案から、最終的に「wellvoice」の名称が選ばれました。

① “well（申し分なく）”と“voice（声）”を合せた造語としての「よりよい声」として、② “well”のもう一つの意味である「井戸」にかけ、「井戸端会議」のように気軽に活発に意見を出し合えるような討議体としたい、との思いから命名しました。

はじめに

各地の自治体において「住民との連携」をキーワードに、さまざまな市民参画への試みが行われておりますが、その手法の多くは、公募型の審議会や委員会などが主であり、そこで意見を述べるのは関係者や専門家などの特定の市民であることがほとんどではないでしょうか。

この為、さまざまな問題意識をもちながらも、普段住民票の交付行政との接点が少なく、実際には各々地域行政への取り組みに積極的に参画するまでには至らない多くの市民にとって、行政に参画する可能性は限られているのが現状です。このような皆さんを「受け手」のままにせず、もっと多くの市民の豊かな知恵と経験を引き出し行政に反映させることは、幅広く多様な市民に対応した行政サービスの提供を可能とし、それを市民が実感し参画意欲をさらに高めていく上で、重要なことと考えております。

この事業は、無作為に選出し選ばれた市民により、地域や社会の問題について討議をし、得られた合意を行政・地域に提言していくものです。地域の課題などに対して「普通」の市民が抱く意識を広くくみとり、さらに地域社会への参画へと導く機会として、この市民討議会を多様な市民参画方法の一つとして、提案、実施していきたいと考えております。

今後も「市民討議会」を継続して開催し、行政や他団体との協働も視野に入れながら、よりこのまちに適した市民参画・地域課題の解決ツールとして発展させていきたいと考えております。ぜひとも皆様には、今後ともご理解を賜り、共にこの「wellvoice」を新しい社会のしくみとして確立できるよう、よろしくお願い申し上げます。

社団法人 立川青年会議所
まちのかたち創造委員会 委員長
宇都木 健太

市民討議会とは

地方分権の進む昨今、国や地方自治体でつくられる計画や条例などにおいて、市民の意見を取り入れる機会が増えてきました。

しかしその手法は、公募型の審議会や委員会などが主であり、そこで意見を述べているのは関係者や専門家などの特定の市民であるのが実状です。

個人の行政参画意識の高いドイツには「プランクズツェレ（Planungszelle）」と呼ばれる市民参画のシステムがあり、利害が複雑に絡む地域問題の解決などに大きな効果をもたらしています。解決しなければならない問題などを様々な視点から複数のテーマに分け、無作為に選ばれた市民や地域の住民がテーマごとに専門家などの意見を聞いた上で討議を行い、結論を導き、メディアなどを通じて発表していくものです。

市民討議会は、この「プランクズツェレ」を日本版にアレンジし、社会に定着させるための試みです。地域や社会が抱える問題を市民や地域住民が共有して考えるきっかけとなり、地域社会の再生の足がかりになるものと私たちは確信しております。

社団法人立川青年会議所では、より多く、幅広く市民のみなさんのご意見を伺う市民参画の方法として、「wellvoice たちかわ市民討議会」を開催し、社会に定着させていきたいと考えております。

市民討議会の特徴

(1) 参加者の無作為抽出

市民の中から無作為に抽出された一定数（未成年者を除く）に開催の案内状をお送り

し、参加者を募ります。

(2) 参加者への有償性

多くの市民参加型事業とは異なり、討議会への参加者には日当・食事が支給されます。これはドイツのプランクズツェレと同様、金銭を支給することにより参加者に「責任ある仕事」として取り組んでもらう点に重きをおいています。

(3) 専門家による情報提供

討議の開始に先立ち、テーマに関する専門的知見をもった関係者を招き、参加者への情報提供を行います。情報の操作性をさげ、異なった意見を聞けるよう複数からの意見を伺います。

(4) 討議・発表・投票

情報提供後、おおむね5人を1グループとした討議を行います。立川青年会議所では案内を受けた方の誰でも参加がしやすく、かつ市民討議会のしくみを知ってもらうために、75～90分の討議を1コマとし、午前・午後各1コマ、1日間の開催としています（プランクズツェレの場合は90分の討議を1コマとして1日4コマ、4日間にわたり行い、提言にまとめています）。

討議後にグループ単位による意見を発表した後、参加者全員による意見への投票を行います。賛同できる意見であれば他グループへの投票もできます。

(5) 市民報告書の発表

討議・投票の結果をもとに意見の集約を行い、市民・行政機関・マスコミなどを通して提出公表を行います。

開催までの経緯

2005年

(1) 東京青年会議所における開催

2005年7月に、社団法人東京青年会議所千代田区委員会の主催により、国内初の「市民討議会」が開催されました。「市民で形づく行政-社会的支援すべき市民活動の課税問題」をテーマに2日間にわたり討議を行いました。

2006年

(1) 3青年会議所合同事業の開催

4月に、財団法人日本青年館ホールにて、社団法人東京青年会議所、社団法人町田青年会議所との3青年会議所共催による合同事業「市民の声が“かたち”になる、新しい社会のしくみ」を開催しました。市民の社会参画の必要性、過去における参画の方法論についての『模擬討論会』を行い、市民の社会参画の必要性と市民討議会という手法の有効性を説くとともに、3青年会議所理事長によるパネルディスカッションを実施し、今後の市民討議会の開催、地域への浸透を目指した共同宣言を採択しました。

これを受け、立川青年会議所では実施に向けた本格的検討に着手しました。

(2) wellvoice たちかわ市民討議会の開催

2006年度ゆめかなえる委員会（矢澤貴光委員長）担当のもと、8月5日に立川市女性総合センターアイムにて多摩地域では初の試みとなる「wellvoice たちかわ市民討議会」を開催しました。市内地番からの500世帯抽出・ポスティングによる参加者募集を行い、当日12名の参加により「市議会と

市民の関わり」をテーマとする討議を行いました。

情報提供者として三葛敦志氏（国分寺市議会議員）、伊藤伸氏（構想日本 政策スタッフ）を招き、市議の立場からみた議会の姿や各国の地方議会のしくみや報酬などについて説明をいただきました。また、立川市より企画政策課、議会事務局も傍聴に訪れました。

参加者の皆さんは初対面にもかかわらず、開始直後から積極的な意見を交わし、発表・投票を経て、「議会に関する情報をもっと積極的に公開すべき」「議員・議会と市民の接点を増やす」などの意見傾向が得られました。

討議・運営の結果は『wellvoice たちかわ市民討議会 実施報告書』として立川市議会議員および議会事務局、立川市役所担当各課、マスコミ等に配布し提言を行いました。

2007年

上記の結果を受け、立川青年会議所では市民の社会参画を促す手法のひとつとして、事業運営全般を2007年度担当委員会（きづく・たちかわ委員会）に引き継ぎ、市民討議会を開催し、制度の認知と充実を図りました。

(1) wellvoice たちかわ市民討議会の開催

2月4日に立川市女性総合センターアイム5階第1・第2和室にて「駅前デッキと路上演奏・パフォーマンス」をテーマに開催し、市内1,200世帯の無作為抽出・ポスティングを行い10名が参加しました。討議・運営の

結果は報告書にまとめ、4月に行政・市議会・参加者・マスコミ等に配付し提言を行いました。

また5月27日にも「地域コミュニティの活性化」を題材にアイムにて開催し、1500世帯のポスティングに対し10名が参加しました。当日は大学教授・立川市担当者・実際にコミュニティ活動に携わる市民の方に情報提供を頂き、コミュニティが抱える課題、活性化に向けた方策等についての意見を述べ合いました。

開催前日までに産経・東京各紙地方面に開催の記事が掲載、3月3日には朝刊の連載記事「民が立つ」に掲載されました。

(2) wellvoice むらやま市民討議会の開催

9月22日に武蔵村山市役所4階会議室にて、4月に行われた市議会議員選挙が無投票に終わったことを受け、2006年に立川市で開催したテーマである「市議会と市民の関わり」を題材に開催しました。市内1,500世帯の無作為抽出・ポスティングに対して9名より参加の回答があり、当日は8名が参加しました。

2008年

2008年度においては地区委員会の国立委員会、立川委員会（未来の立川創造委員会）を担当に市民討議会を開催しました。

(1) wellvoice くにたち市民討議会の開催

2009年度の国立市との共同開催を見据えての実行委員会が立ち上がる中、国立委員会では10月26日にくにたち南市民プラザにて、「くにたちのまつり・まちを活性化させるイベントづくり」をテーマにして開

催しました。市内2,500世帯の無作為抽出・ポスティングに対して17名の参加と12名の傍聴の回答がありました。

(1) wellvoice たちかわ市民討議会の開催

前年度に引き続き、11月9日に立川市女性総合センターアイム5階第1・第2和室にて、「教育-子ども達の未来を考えてみませんか？」をテーマに「子どもとのかかわり」から何が足りないのか、大人が子どもたちに対して何ができるかを、討議していきました。市内3,000世帯の無作為抽出・ポスティングに対して22名の参加と2名の傍聴の回答があり、当日は18名が参加しました。

2009年

(1) 南の風トーク～くにたち市民討議会～

立川青年会議所としては初の試みである行政（国立市）との共同開催により、2月21日と22日の2日間にわたり、「国立市の南部地域のまちづくり」を大テーマに、南部地域に関する6つの小テーマについて討議が行われました。

開催前年の10月より、市民討議会の有識者1名、立川青年会議所から3名、公募市民4名、市役所職員1名の計9名で構成される実行委員会を設置し、運営準備を進めました。

この市民討議会では、無作為抽出に住民基本台帳が活用され、2日間の開催にも関わらず、1,000世帯の募集に対して初日36名、2日目34名の参加があり、傍聴者も数名の参加がありました。傍聴者の中には市外からの方もいらっしゃいました。

同6月26日に市民討議会実行委員会より実施報告書を市長に提出しました。

運営の結果

開催前の準備

■広報

事業PRとして、A4両面印刷のチラシを作成しました。



案内チラシ

(1) チラシの配布

チラシは会場となる立川市女性総合センターアイムへの配置を行いました。

(2) ホームページ

立川青年会議所ではホームページ (<http://www.tachikawajc.or.jp/>) に市民討議会に関するコーナーを開設しており、過去の開催報告とあわせ、今回の事業に関する内容を掲載しました。

(3) マスコミ

書面によりプレスリリースをおこないました。

■無作為抽出による参加者募集

(1) 住民基本台帳からの抽出

2005・2006年度に東京青年会議所千代田区委員会で開催された「市民討議会」や、三鷹市において行政が中心となり開催された「みたかまちづくりディスカッション」では、無作為抽出の手段として住民基本台帳が利用されました。ここ立川市での開催においても、企画の段階にて抽出における台帳の利用を検討し、行政にも問い合わせを続けていますが、昨今の個人情報保護に関する諸問題から住民基本台帳の閲覧に対する制限が強化される中、行政との打ち合わせでも「『市民討議会』に対する認知度が低い現状においては、台帳利用に対して市民の理解を得るのは難しい」との見解もあり、依然として利用にはハードルがある現状です。

(2) 2種類の方法による抽出

上記を受け今回は、これまで同様に市内の各町丁から無作為に地番を選び、当該世帯に直接案内状をポストイングする方法に加え、日本郵便の「タウンプラス（配達地域指定ゆうメール）」を採用し、2種類の手法を用い募集を行いました。

地番からの世帯単位の抽出方法は厳密には完全な無作為抽出とはいえませんが、号数の指定にもランダムで数字をあてるなど、極力恣意性を排除するよう心がけました。

○抽出対象:立川市

○募集対象:市内在住の18歳以上の男女

○抽出数:2,000世帯

○対象者の抽出

母集団:市内の一部地域（曙町・柏町・栄町・羽衣町・富士見町・西砂町）

地点数:2,000

抽出法:層別二段無作為抽出

（層別→地点抽出→対象世帯抽出）

層別:市内の町丁を単位として

層化:30地区

地点数配分:各地区内の世帯数に応じて

発生確率を比例配分

対象者抽出:各地番にランダムで号数の末尾1桁を選定（例：9の場合は9号、19号、29号…のいずれか）

（3）ポスティング

ポスティングには以下の資料を同封しました。

・チラシ ・参加のご案内 ・回答書(FAX用) ・返信用ハガキ（料金受取人払） ・立川青年会議所のご案内

ポスティング作業は立川青年会議所メンバーにて分担しました。事前に住宅地図を用いて確認の上投函を行いました。当該世帯が転居、もしくは空家や空地となっていた場合は、そのまま持ち帰りました。

表1-ポスティングによる
 各町単位の抽出数及び返信数

町名	世帯数*1	世帯数	返信数
曙町	8,466	340	16
柏町	4,928	250	11
栄町	6,289	340	14
羽衣町	5,547	300	8
富士見町	9,410	570	29
西砂町	3,314	200	9
合計	37,954	2,000	87

*1・・・2011年7月1日現在（立川市HPより）

（4）タウンプラス

（配達地域指定ゆうメール）

今回新たな配布手段としまして、ポスティング方式と並行して、日本郵便のタウンプラス（配達地域指定ゆうメール）を活用しました。3,000通のご案内を該当する町丁名毎に世帯数構成比で按分した抽出数で郵送致しました。封入物はポスティングと同様の資料を同封しました。こちらはポスティングと異なり宛先は特定しないため、丁目毎の抽出数を配達員がアットランダムに配達する形となりました。この点において、送付先の無作為性を担保しております。よって、封筒の宛名部分は「立川市にお住まいの皆様へ」という内容を記載しました。

この手法の利点は、ポスティングのような宛先違いが生じず、確実にそして瞬時に送付できることです。

また、何と言ってもポスティングに係る人的コストを軽減できることが特徴です。

表2-タウンプラスによる
 町単位の抽出数及び返信数

町名	世帯数*1	抽出数	返信数
泉町	694	40	0
上砂町	3,588	290	3
幸町	6,720	360	4
柴崎町	6,820	310	0
砂川町	6,524	400	9
高松町	6,858	330	1
錦町	11,302	500	6
緑町	1,223	90	0
若葉町	5,609	330	7
一番町	6,277	350	6
合計	55,615	3000	36

*1・・・2011年7月1日現在（立川市HPより）

市内5,000世帯へのポスティング及び
 タウンプラスで募集を行った結果、125
 名（2名は住所・氏名不明）から返信があ
 り、28名より出席の回答がありました。



同封資料

開催当日

2011年9月11日（日曜日）、立川市女
 性総合センターアイム5階第3学習室にお
 いて、「自転車をいかしたまちづくり」
 をテーマに、複数の情報提供を得た上で
 討議を行いました。

■会場

今回は洋室（テーブル・椅子形式）で
 設営しました。

■討議の傍聴

見学者は直接室内端の傍聴席より見学
 を行いました。

■運営人数

当日の運営は統括責任者以下、運営管
 理者1名、司会進行1名、参加者受付1名、
 運営補助4名の計7名にて実施しました。

■討議のグループ分け

今回は討議の単位として、5名×4グル
 ープと6名1グループの計5グループにラ
 ンダムに分けました。グループ分けにつ
 いては予め午前のDISCUSSION1ではアッ
 トランダムにA・B・C・D・Eグループに
 分け、討議を行いました。

また、午後のDISCUSSION2も同様に、予め
 1・2・3・4・5グループに分け、討議を
 行いました。また、円滑な進行を図るた
 めグループにはそれぞれ、司会と書記兼
 発表役（椅子及びテーブルの脚部分にシ
 ールを貼付し識別）を設けました。

表3-参加者(26名)

男性 (71)	曙町
男性 (65)	曙町
女性 (61)	曙町
男性 (58)	曙町
男性 (25)	曙町
女性 (60)	栄町
男性 (64)	栄町
女性 (62)	上砂町
男性 (43)	幸町
男性 (66)	幸町
男性 (44)	幸町
男性 (67)	砂川町
男性 (64)	錦町
女性 (67)	西砂町
女性 (60)	羽衣町
男性 (63)	羽衣町
男性 (75)	羽衣町
男性 (69)	富士見町
男性 (62)	富士見町
男性 (69)	富士見町
男性 (63)	富士見町
女性 (29)	富士見町
男性 (58)	富士見町
男性 (59)	若葉町
女性 (47)	若葉町
男性 (78)	若葉町

■タイムスケジュール

午前は討議55分（用紙への書き込み作業も含む）、発表3分以内×6グループ、投票10分、午後は討議65分（午前と同様）、発表3分以内×6グループ、投票10分にて行いました。開始時に討議の進め方、発表・投票の流れに関する説明の時間を設け、スムーズな進行ができるよう配慮しました。

■情報提供・専門家への質疑

今回の情報提供は午前・午後ともに討議の前にそれぞれ行いました。野澤英一氏（立川市都市整備部交通対策課）、古倉宗治氏（株式会社住信基礎研究所 研究理事）、村上英徳氏（NPO法人スマイル代表理事）が情報提供を行いました。情報提供終了後、若干の質疑時間を設定しました。質疑の内容については、説明の中での不明瞭な部分に関する質問のみにとどめました。なお討議開始後も情報提供者は引き続き会場にとどまり傍聴するとともに、必要に応じ参加者からの個別質問に対する補足等を行いました。

■事前の自己紹介

グループに分かれた後は初対面の緊張をほぐすため、最初に自己紹介を行いました。住居の場所や参加した動機などを全員が話しました。名札の着用と互いに「～さん」付けで呼び合うとの事前ルールを確認して討議に入りました。

■討議形態

討議の間、グループごとのファシリテーターはとくにおかず、室内の運営スタッフが情報提供者への取り次ぎ、その他討議運営上の補足等の対応を行いました。

討議ではグループごとに大判の付箋紙を用いて、意見を出し合い、意見を最大3つに集約しました。また「残したい意見」（付帯意見）として用紙下部に記入欄を設け、より多彩な意見を表明できるようにしました。

■討議結果の発表

各グループにて、討議で表出された意見をあらかじめ準備した模造紙にサインペンで書き、室内中央に設置したホワイトボードに掲示の上、グループ単位で意見発表を行いました。発表は1グループ3分以内で、各グループメンバー全員が前に立ち、その代表者が行いました。

■投票

各グループの発表後、参加者26名による投票を実施しました。1つの課題（小テーマ）に対してひとりあたり5票をもち、各グループより発表された意見に対する賛成票を投じました。

■その他

当日はJCNマイテレビより取材を受けました。討議の様子は9月12日に5回、17日と18日にそれぞれ2回、1分間のニュースとして報道されました。



討議の前段で情報提供を受ける



グループ討議（個人の意見出し）



全員でグループ発表



グループ討議（グループの意見まとめ）



投票

タイムスケジュール 計画との比較

9:30	受付開始		受付開始
10:00	開会式 挨拶・ご説明		開会式 挨拶・ご説明
10:20	討議①自転車の良し悪しについて 情報提供 大澤氏、古倉氏		討議①自転車の良し悪しについて 情報提供 大澤氏、古倉氏
10:50	討議開始		討議開始
11:00			討議開始
11:45	グループごとの意見発表		グループごとの意見発表
12:10	投票		投票
12:25	昼食・休憩		昼食・休憩
13:20	討議②自転車の活用法 情報提供 大澤氏、古倉氏、村上氏		討議②自転車の活用法 情報提供 大澤氏、古倉氏、村上氏
14:10			討議開始
14:20	討議開始		
15:15			グループごとの意見
15:25	グループごとの意見発表		
15:30			投票
15:40			アンケート記入・情報提供者総括
15:55	投票・総括		
16:00			謝辞
16:05			閉会
16:20	アンケート記入		
16:30	謝辞		
16:33	閉会		

テーマ討議の実施結果と考察

テーマ設定の背景

今回、市民討議会のテーマとして「自転車をいかしたまちづくり」についてとりあげました。

多摩地域における立川駅のハブ化、駅前的大型商業施設、庁舎移転に代表される市の機能移転集積など、近年の立川市の躍進は顕著であります。しかし一方で、賑わいが駅周辺に限定されていることで、そこへと集まる週末の混雑、或いは旧来の商店街の過疎化など弊害も顕在化しています。立川市全体という視点で、もっと空間的な広がりや回遊性を意識したまちづくりという議論をすべきではないかと考えました。何より市民自らが「まち」のことを考え、「住みやすく・楽しい」たちかわを創造すべきであると。

今回、切り口として「自転車」をテーマとして挙げた選定ポイントとして、以下のものがあります。

- テーマが直接的関わりがなくとも身近である…参加意欲、意見の出しやすさ
- アイデア抽出型…不満、要望に終わらない→建設的な意見抽出が可能
- 目指すまちづくりへ資する…「住みやすく・楽しい」まちづくりのデザインを行う
- 行政の喫緊の課題…行政との協働で、討議会の信頼性、今後のパートナーシップ構築、討議結果の受け皿とする

情報提供者・資料提供について

情報提供者として、立川市都市整備部

交通対策課の野澤課長、株式会社住信基礎研究所研究理事の古倉宗治氏、NPO法人スマイル代表理事の村上英徳氏をお迎えしました。

野澤課長からは利用実態、市における課題と取り組みの方向性と高松駅レンタルサイクル事業紹介について。古倉氏からは多角的に自転車を捉える視点と海外や他地域の取り組み事例紹介について。村上氏からはコミュニティビジネスの視点と現状について、それぞれの情報提供がありました。

得られた意見の傾向について

午前・午後にわたる討議の結果、次ページ以降に示す意見の傾向が現れました。これらの結果が導かれるまでに、午前・午後それぞれ26名の立川市民が2つの課題について同様に議論し、意見発表を行いました。

次ページ以降に、両課題における参加者の意見傾向を載せました。投票は参加者26名が各々5票を投じ、各課題とも投票総数は130票となります。

DISCUSSION 1「自転車」って、そもそも“いいもの?” “わるいもの?”	投票数
都市計画(道幅)の観点から自転車の存在が視点に入っていなかった。 自転車のためのスペースは確保すべき。	15
駐輪場「価格」と「サービス」について「一貫した基準」の設定が必要。	14
良いものにも悪いものにもなりうる。 運転者の心の在り方で属性を消してしまう。(マナー・モラル)	9
ルール・マナーが悪い。	9
交通費がかからず、購入費も安くすみ、手軽に使える。 放置自転車の撤去費用がかかり、管理面で市の負担が大きい。	8
健康の増進に役立つ。	8
高齢者・免許にない人にとっての交通手段。	8
【良いもの】健康に良い・環境に良い・家計にやさしい・気軽に使える。	8
二酸化炭素の削減となり、燃料もかからない。 置き場や管理に困り、景観や交通を圧迫している。	6
[マナー]と[環境]には密接な関連がある。 長期的な視点で取り組む。	6
利用者のマナーが足りない。	6
【悪いもの】運転手のマナーが悪いと危険・安全面・車より荷物が運べない	6
手軽な足となり必要不可欠。	5
駐輪場の整備が不十分。	5
自転車に乗ることで、体力づくりと気晴らしになっている。 乗り方によっては、交通災害の原因となり、死傷事件を起こしている。	4
災害時には交通手段であり、狭い道路での利用。	3
年配者及び幼児には向かない。	2
天候に左右される。	0

～DISCUSSION 1～

「自転車」って、そもそも“いいもの?”
“わるいもの?”

補助輪を外し始めて自転車に乗れたあの喜びは、幼少期の大きな思い出の1つではないでしょうか?自転車は、そんな頃から何十年と身近な乗り物として私たちの日常生活の中にあります。しかし、一方で身近な交通手段として使われる自転車の役割は、時代の流れとともに大きく見直されています。

第1討議では「自転車をいかしたまちづくり」を考える前に、改めて、そもそも

自転車ってどんな特徴や役割があるのだろうか?自転車そのものについて、或いは、自転車を利用することで生ずるメリット・デメリットって何でしょうか?について考えてみたいと思います。

「自転車」と言っても、色々な角度から見てみることはできませんか。

例えば、あなたはどんな理由で自転車を利用しますか?どんな理由で自転車を利用しませんか?

【結果】

テーマからして両極の意見が予測されましたが、結果として、上位から「都市計画(道幅)の観点から自転車の存在が視点に入っていなかった。自転車のためのスペースは確保すべき。」(15票)、「駐輪場「価格」と「サービスについて「一貫した基準」の設定が必要。」(14票)、「良いものにも悪いものにもなりうる。運転者の心の在り方で属性を消してしまう。(マナー・モラル)」(9票)、「ルール・マナーが悪い」(9票)などという具合に、なっていました。

都市整備や自転車利用者に対してのマナ

一つについての意見が多かったように思われます。

また、自転車をいいものとしてとらえていた意見としては、「健康に良い」「経済的」「手軽に扱える」などという具合に、なっていました。

投票の結果からすると、自転車の経済性、健康増進、利便性など長所は明確だが、やはり活用する上で課題が様々あるということが改めてこの結果から浮彫りとなりました。

DISCUSSION 2 自転車をもっと有効に活用するには?アイデア求む!	投票数
自転車イベントによるまちの活性化。 ー駐輪場の活用ー	19
自転車購入者・処分者にエコ特権をつける。	18
要望・希望・アイデアとして、立川駅中心に自動車乗り入れ禁止エリアにして、人にやさしいまちづくりが必要。	13
自転車本体をカラフルにして魅力あるものとする。	12
自転車関連のイベント(スタンプラリーなど)を通じて周辺部の活性化を図る。	12
まちの活性化の為に、歩行者天国を復活し、この日は自転車の乗り放題。	9
自転車レーン・駐輪場・標識などの社会資本整備を促進すると共に、より安全な車両を開発する。	9
ーコミュニケーションのためにー 「スマイルタクシー」の利用拡大。(高齢者・障害者・子ども)	9
専用レーンの設置及び強化をし、教育・宣伝の充実を行う。	7
現状、立川市内には、安全に走りきれぬ自転車道路はない。五日市街道は道路の歩道を広げる余地がない。ワークシェアリング利用の回転の確保はできるか。	6
学校や町内会などで自転車安全教育を徹底させる。	4
自転車のマナー講習で安全の確保。	3
利用の自由度が高いことが利用増加につながっている。	3
環境整備及び自転車と利用者の制御を行うことで逆に利用しやすくなる。	2
以上の極論をどのように融通するかということが大切になる。	1

～DISCUSSION 2～

自転車をもっと有効に活用するには？
アイデア求む！

これまでも自転車利用については、国やそれぞれの市区町村で取り組みがなされてきました。

しかし、それは交通安全に重点をおいた検討が多かったり、走行空間や駐輪場の確保といったハード面の対応を中心とする関連施設や、放置自転車への対応という問題に対する施策が多かったように思われます。

第2討議では、これから立川市がもっと「楽しく・住みやすく・安心して」暮らせるまちにするために、自転車を有効に活用できないか考えてみたいと思います。

【結果】

先に上がった課題はそれとして認識しつつも、ここではあくまで自転車をいかしたまちづくり、という観点で話し合いました。結果は、「自転車イベントによるまちの活性化。一駐輪場の活用一」（19票）、「自転車購入者・処分者にエコ特権をつける。」（18票）、「要望・希望・アイデアとして、立川駅中心に自動車乗り入れ禁止エリアにして、人にやさしいまちづくりが必要。」（13票）、「自転車本体をカラフルにして魅力あるものとする。」（12票）、「自転車関連のイベント(スタンプラリーなど)を通じて周辺部の活性化を図る。」（12票）、「まちの活性化の為に、歩行者天国を復活し、この日は自転車の乗り放題。」（9票）、「自転車レーン・駐輪場・標識などの社会資本整備を促進する

と共に、より安全な車輦を開発する。」（9票）、「一コミュニケーションのために一「スマイルタクシー」の利用拡大。（高齢者・障害者・子ども）」（9票）などという具合に、イベント的なもの・自転車自体に関することなど、さまざまな意見が出されました。

これらを見ると、自転車のイベント（ここでは具体例として、駐輪場の有効活用やスタンプラリーの開催などがあげられました）を行うことでまちの活性化に繋がっていくというものが多く上げられました。また、自転車の利用促進策としてエコ特権をつけるべきだという斬新なものもありました。

自転車そのものに関することとしては、カラフルにする、或いは安全なものにする、など自転車自体を魅力あるものにするべきだという意見もありました。

少数ではありますが、マナーアップの為の啓蒙活動を行うべきであるという意見もあり、当然ながら活用する前提として整えなければならないもの、意識的なもの、と言った意見も出されました。

実施後の評価と今後の課題

参加者のアンケートから

市民討議会終了後、参加者 26 名を対象にアンケート調査を実施しました。15 項目について質問を行い、以下にその集計結果を示しました。

(1) wellvoice たちかわ市民討議会について

質問 1 「wellvoice たちかわ市民討議会をご存知でしたか?」に対しては、26 名のうち 1 名から「新聞等で知っていた」と回答がありました。立川市での開催が新聞の地域欄で何度か取り上げられたことや、他地域での市民討議会の開催などによって、少しずつですが認知がされてきているようです。また、3 名の方から過去にも参加されたとの回答がありました。

(2) 市民討議会の印象

質問 2 「市民討議会の案内が届いたとき、どのように感じましたか?」に対しては 17 名が「まじめな案内」と回答し、参加者からは一定の理解をもって迎えられたようです。一方では「イメージとは少し違った」との回答も寄せられました。

質問 5 「参加されていかがでしたか?」については、「勉強になった」(19名) 「楽しかった」(7名) 「興味がわいた」(2名) と、おおむね好感触をいただくことができました。

(3) 参加動機について

質問 3 「なぜ応募しましたか?」では「テーマに興味あるから」(14 名) のように、テーマがごく身近なものだから参加した方、「町のことについて取り組みたいから」(9 名) のように、まちづくりに関心のあ

る方、「市民討議会に興味があるから」(8 名) のように、本会そのものに関心があったなどの回答がありました。

(4) 討議の進め方・設営面

質問 7 「情報提供者についてはいかがでしたか?」では「わかりやすい」(18 名) の一方で、「わかりにくい」(3 名) 「情報に偏りがあった」(3 名)、との声も頂いています。

質問 9 「討議時間」(今回約 60 分) については、17 名が「適切」と回答しました。

質問 10 「開催時間」(10:00~16:00) については、16 名が「丁度良い」と回答しました。

質問 8 「グループのメンバー数や雰囲気はいかがでしたか?」では、「和やか」「ちょうどよい」との意見を多くの方からいただきました。中には「もう少し多くても良い」という意見もありました。

(5) 報酬

質問 11 「報酬」に対する質問では 14 名が「支払うべき」、6 名は「不要」と回答しました。その他の回答は「どちらでもかまわない」との趣旨でした。質問 12 の金額については 17 名が「適切」3 名が「多い」2 名が「少ない」と回答しました(4 名無回答)

(6) 案内状の送付について

無作為抽出に対して住民基本台帳を閲覧することについては、23 名が「妥当」と答えました。一方で個人情報の漏れいやプライバシーの侵害などを懸念する意見もありました。

(7) 今後のテーマについて

質問 14「今後取り上げてほしいテーマ」には、防災、まちづくり、福祉、財政などさまざまなものが出てきました。

実施後の評価と課題

(1) 無作為抽出・参加者について

今回は市内全域から5,000世帯を抽出し、参加目標数を30名に設定し募集を行いました。

抽出にあたっては2,000世帯を最新版の住宅地図で行いましたが、転居や建物の取り壊し等により該当する世帯が存在しないケースがありました。最終的には全体の5%（100通）が不達でした。残りの3,000世帯はタウンプラスを利用しました。

案内総数を前回の3,000から今回5,000世帯に増やした結果、参加数について、参加回答28名、当日参加が26名になり過去最高となりました。このことから、やはり参加者数は案内の母数に比例して増加することが明らかになりました。

しかし、母数の増加に比例して、案内等内容物の準備及び配布作業が膨らむことになり、結果として、下記の問題点が生じることとなります。

抽出世帯数5,000世帯の資料印刷・折り込み・封入、ポスティング2,000世帯においては住宅地図からの住所・宛名の拾い出しから入力・ラベル出力、さらにポスティング補助資料（現場地図・指示表）の準備まで要し、トータル2週間近くを要しました。

今回の欠席理由の大半が「既に先約が

あって」からも推察されますが、参加率にご案内が如何にタイムリーに手元に届くかにも大きく関わってきます。がしかし、担当メンバーへの投函物の分配、ポスティング作業と、各メンバーが勤務時間の合間や勤務後の夜間を使っての作業となるため、ある程度のゆとりを考慮したものの、予定通り作業が進められないケースも多々ありました。

そのことから、今回は先述のタウンプラスによる郵送という方法を併用して行いました。ポスティングの人的負担の軽減、不達のような問題点が改善される利点があります。しかし、両手法を出欠回答の返信数、参加者数で比較すると、従来のポスティング経由の方が約 7:3 の割合で多数であるという結果が出ました。やはり宛名の有無で封書の信頼性が判断されているのでは、と分析しています。

今後も募集方法については、経済性、効率性、信頼性など様々な側面から検討を重ねる余地があると考えます。

(2) 不参加理由について

今回 86 名の方より「不参加」の回答を頂きました。主な理由としては「すでに先約が入っている」25 名、「仕事のため」20 名など日程の理由が過半数を占めました。これは見方を変えると、早いタイミングで案内が届けば、参加に転じる可能性があるとも解釈でき、よりタイムリーな送付が必要だと感じました。この他、「高齢のため」「病気のため」など体調に関する理由も多く見受けられました。その他、「封筒記載の本人が死亡のため」という回答もありました。ポスティングの場合、住宅地図を使用する本方式では、

地図記載の氏名（=表札）から宛先を拾うため、このようなケースが起きたと考えられます。

世帯単位に配布する現行のシステムは、世帯主の開封後に家族の間でどの程度情報が伝わるか、諸条件にもよりますが、家族の中の若年層までに届きにくいという問題も推察されます。

また、今回は、参加回答が確認できた段階で、電話等でご挨拶を差し上げたこともあってか、当日のキャンセルはでませんでした。細かいことではありますが、参加者に対しての気配りの必要性も感じました。

表1-過去のwellvoiceの無作為抽出数と参加数

開催年月と開催場所	抽出数	参加者数
2006年8月・立川	513	12名
2007年2月・立川	1200	10名
2007年5月・立川	1500	10名
2007年9月・村山	1500	8名
2008年10月・国立	2500	17名
2008年11月・立川	3000	18名
2011年9月・立川	5000	26名

(3) 事前のPRについて

アンケート結果からもわかるように、まだまだ認知度が低い市民討議会では、この手法自体の話題性を喚起していかなければならないと感じています。例えば、実際にご案内を送付する前段より、討議テーマを公募するなどの仕掛けにより認知度を少しでも高められれば参加数も変化してくるのではないのでしょうか。また、今回も大手各紙に対するプレスリリースを行い事業告知をしましたが、こちらもアンケートの結果から「過去の新聞記事で知っていた」との回答があった通り、

引き続き積極的に行う必要があります。

しかし、主に若年層の情報収集源が紙媒体からネットに流れ、新聞離れが加速している現状もあり、幅広い世代に知ってもらう上では、新聞と並行した効果的なPRについて、ソーシャルメディアの活用など今後の課題も残っております。

(4) 実施テーマ数・日程について

今回は午前・午後各1つずつの小テーマとしました。

アンケート結果からも「60分」という今回の時間設定について大半の方から妥当という回答をもらいました。

ただ時間の制約から実施できるコマ数は1日あたり2~3が限度であり、現状の1日開催の場合は、どうしても各論までは至らず、一般論的な意見にまとまってしまふところはあるようです。

(5) 会場について

今回は通常の会議室（洋室）で実施しました。長時間の正座・胡座による負担を考えると、やはり洋室での設営が妥当のようです。しかし、今回の会場に窓もなかったせいか、人数の割に少々圧迫感を感じました。討議のし易さを考えると、会場の広さや雰囲気づくりも大切なポイントだと思いました。

また、今回は別室・モニタは使用せず、討議室内に傍聴者を入れました。関係者も含めて最大で7~8名が傍聴しましたが、討議進行上大きな支障はありませんでした。少しでも多くの人に討議のプロセスを見聞きしてもらい、関心を高めるという点においては、引き続き可能な範囲で傍聴者を会場に入れられる設営を今後も検討したいと思います。

(6) 情報提供について

今回の市民討議会では行政の立場から、野澤英一氏（立川市都市整備部交通対策課課長）、自転車政策の専門家として古倉宗治氏（株式会社住信基礎研究所 研究理事）、そして、実務の立場から村上英徳氏（NPO法人スマイル 代表理事）から提供を頂きました。

参加者からは今回の情報提供についておおむね評価をいただくことができましたが、他方、限られた時間であったため不足感や情報の偏りを感じたというご意見もありました。

無作為抽出と並び、「偏りのない情報の提供」が提言に対する客観性、信頼性を担保する上での前提となります。今後の開催においてはテーマ選定も含め行政・地域・他団体への紹介、協働をより進めていくことが必要と感じました。

(7) グループ討議の形態について

ドイツのプラーヌクスツェレにならない、今回も討議を通したファシリテータはおかず、司会が全体のタイムキーパーを兼ね、その他室内の運営スタッフが事務的な取り次ぎや補足を行うスタイルをとりました。スタッフをグループ討議の時間中配置する必要もなく、積極的に討議がなされていました。返って、スタッフが巡回することで討議の集中力を削いでしまった部分もあったようです。

今後の展望

(1) テーマ設定

今回、万人にとって触れやすく多種多様な参加者構成で臨みたいということから、まちづくりを考える切り口に「自転

車」を持ってきました。しかし、触れやすい反面、様々な側面を有し参加者の捉え方も多様であることから、議論が深まるか、合意形成が図られるか不安も感じておりました。その一つの解消法として、討議の位置づけを課題の抽出ではなく、意見（アイデア）の抽出として構成を組み立てました。実際には、運営側からもう少し論点を明確に提示した上で討議を進めて頂ければという反省はあるものの、多くの建設的な意見が出されたと思います。

今後、どのような開催テーマにおいても、小テーマの設定が討議の質にとって重要になりますし、時間配分や情報提供などとの整合性を充分考慮し組み立てていく必要があると考えます。

(2) 討議結果の反映

討議結果の反映は、アンケートからも参加者の多くが期待する点であります。集約された意見の行方、つまり行政等に政策反映されたか、またそれを参加者が可視できるか、であります。

討議の結果は「報告書」という形で行政に提言される訳ですが、少しでも討議結果が行政政策に反映されるものである為には、政策形成プロセスの立案段階において実施されることが適切であると思えます。

立川市は今後の自転車総合政策を推進する為に、現在、有識者や関連事業者を中心にその実施戦略を策定する懇談会を立ち上げております。今回は、その懇談会へ本報告書を持って答申する予定になっております。

まとめ

地域にある問題解決のためのツールとして「wellvoice市民討議会」の確立・定着を目指し、立川青年会議所主催のものとして7回目、立川市においては2008年以来5回目の開催となりました。

今回の市民討議会では立川を「楽しく・住みやすく・安心して」暮らせるまちにするために、身近な乗り物である「自転車」をどういかしていけるのか、を考えていきました。

何か、莫大な費用をかけるだけが豊かなまちづくりではないはずです。そもそも立川市は東西南北に平坦な土地であり、昭和記念公園や競輪場など他にない資産を有しています。そうした特徴と資産を上手に活かしながら、もっと市民の創意工夫で魅力あるたちかわを築くことができると思います。その一つのツールが自転車ではないでしょうか。

今後、過去7回の開催の結果を踏まえ運営面を中心とした比較考察を通し、また市民の皆さんからいただいた意見をいかにして地域にアピールし反映させていくか、効率的・効果的なツールとしての深化を検討していく必要があります。同時に活動地域が3市にまたがる立川青年会議所のメンバーとして、事業を行っていく上で自分たち自身が改めて地域を知ること、関心を寄せることの必要性を改めて感じました。

立川青年会議所では、今後も市民討議会開催を企画、実施して参ります。無作為抽出・情報提供・有償制の基本をおさ

えつつも、テーマやその他実施形態においてはまだまだ多くの余地があると思っています。例えば「子育て」がテーマであれば、行政との共催により住民基本台帳を活用し、未就学児童がいる世帯に特化した抽出や、「地域の就職」であれば、学生や年齢など特定の層を抽出することも可能となります。一方、市内の特定地域の問題にフォーカスした課題解決型の討議会があってもいいでしょう。また、運営母体も、公募を行ったり、学生と一緒に若年層へのアプローチを行うこともできます。

このように、立川青年会議所としても地域に根ざしたツールとして、次年度以降今後さらなる進化をめざし継続的な検討を重ねていきたいと思えます。

謝辞

今回のwellvoiceたちかわ市民討議会に、ご理解ならびにご参加いただきました市民の皆様、またご多忙の中、情報提供をいただきました野澤様、古倉様、村上様にはあらためて厚く御礼を申し上げます。

参考資料

wellvoice むらやま市民討議会実施報告書（社団法人立川青年会議所きづく・たちかわ委員会）2007年

wellvoice くにたち市民討議会実施報告書（社団法人立川青年会議所国立委員会）2008年

wellvoice たちかわ市民討議会実施報告書（社団法人立川青年会議所未来の立川創造委員会）2008年

資料編

参加者アンケート結果

※回答に関しては一言一句そのまま掲載させていただきます。

1. a) これまでに「wellvoice たちかわ市民討議会」をご存じでしたか？

- 1 知っていた 4人
- 2 知らなかった 22人

b)a)で「はい」とお答えの方にお尋ねします。どこでお知りになりましたか？

- 1 チラシ 0人
- 2 ホームページ 0人
- 3 新聞記事 1人
- 4 知人から聞いた 0人
- 5 その他 3人

●前回、子ども教育について参加しました。

●以前討議会に出た。

●過去に出席歴があります。

2. 「市民討議会参加のご案内」が届いたときどのようにお感じになりましたか？

- 1 厄介だなと思った 0人
- 2 不信感を抱いた 2人
- 3 まじめな案内だと思った 17人
- 4 その他 8人

●亡くなっている祖父あての封書だったのでビックリしました。

●びっくりした。

●自転車、愛好していろいろな感じているから参加してみたいと思った。

●興味を持った。

●おもしろそうだと思います。

●以前も出たので、良いと思った。

●どうしようかなと思った。

●特になし。

3. なぜ応募しましたか？

- 1 テーマに興味があるから 14人

- 2 市民討議会に興味があるから 8人

- 3 謝礼ができるから 2人

- 4 まちのことについて取り組みたいから 9人

- 5 その他 2人

●一つの人生経験として

●市民の義務として当然だから。

4. 市民討議会の内容説明はご理解いただきましたか？

- 1 イメージはつかめた 15人
- 2 よくわかった 10人
- 3 わからなかった 1人
- 4 その他 0人

5. 実際に市民討議会に参加されてみていかがでしたか？

- 1 楽しかった 7人
- 2 勉強になった 19人
- 3 興味がわいた 2人
- 4 つまらなかった 0人
- 5 難しくよくわからなかった 0人
- 6 想像と違った 2人
- 7 その他 1人

●日本が高齢化社会であることを実感した。

6. 市民討議会に参加された前と後で何かかわりましたか？

●市民の為の市政に取り組んで下さっている立川市に感謝です。

●立川市について考えるようになりました。

●立川市に対する愛着が増した。

●立川市民として討議できる場に参加でき、引き続き、考えていければと思う。

●立川市役所の「自転車行政対策の内容」が理解できた。

●自転車について、より理解できた。

●情報提供により、自転車に関する有効な現状を理解できた。

●テーマの内容がよくわかりました。

●テーマについてより認識が深まった。

●人気施策よりは地道な施策をしてほしい。

●協調の難しさ。

●いろいろな意見があることが分かった。

●自分の意見が反映されれば良いと思った。

●楽しくなった。

●何も変わらない。(2人)

●特になし

7. 情報提供(者)についてはいかがでしたか？(複数回答可)

1 説明がわかりやすく参考になった 18人

2 説明がわかりにくく疑問が残った 3人

3 情報に偏りがあった 3人

4 説明が長い 2人

5 説明が短く不足感があった 1人

6 その他 4人

●認識が正しい方向にもっていった点、ありがたかった。

●車道への自転車が安全と感じていた為、データも、証明していただけてうれしい。

●皆が、安全に、けがのない様、生活や、弱者にやさしいことはうれしい。

●もっと良く説明することと、質問時間が無いのは!!興味深い資料がもったいない。

●一部情報を隠していると思われる部分があった。

●知らなかったことも多く、勉強になった。

8. 討議グループの人数や雰囲気は如何でしたか？

1 ちょうどよい 21人

2 少ない 1人

3 多い 0人

4 和やかで話しやすい 3人

5 参考になる意見が多かった 4人

6 自分の主張ばかりが目立った 0人

7 話しづらく重い雰囲気だった 0人

8 その他 0人

9. 討議(個人の意見出し~グループのまとめ)の時間はいかがでしたか？

1 長かった 0人

2 少し長かった 0人

3 丁度良い 17人

4 少し短かった 6人

5 短かった 1人

10. 討議会全体(開会 10:00~閉会 16:30)の時間はいかがでしたか？

1 長かった 0人

2 少し長かった 6人

3 丁度良い 16人

4 少し短かった 2人

5 短かった 0人

11. 謝礼についてご意見をお聞かせください。また、その理由は？

1 支払うべき 14人

2 いらぬ 6人

3 その他 4人

4 理由

●交通費、実費でも良い。(支払うべき)

●責任感。(支払うべき)

●意見を出すため、真剣に臨んでいるため、この場に。(支払うべき)

●参加者の自由時間を束縛している。(支払うべき)

●市民としてこのような場で話し合いを行うのは義務だと思うから。(いらぬ)

●自分の街なら議論はしかるべきです。(いらぬ)

●内容的にそんな高度なものではないので?(いらぬ)

- どちらでもよい。(その他)
- 参加することの意義、ありがたいでした。(その他)

●頂いていいのか迷う部分あり。(その他)

12. a) 今回1日の開催に対する謝礼の金額についてはいかがでしょうか？

- 1 適切 17人
- 2 多いと思う 3人
- 3 少ないと思う 2人

b) 前問 a) で1「適切」以外にお答えの方におたずねします。

1日の開催に対して適切と考えられる金額はいくらですか？

- ¥0-(2人)
- ¥2,000-(2人)
- ¥5,000-(2人)

(参考)もっと高くするなら知識のある人になってくると思います。

13. ご案内状の送付に関する質問です。

a) 今回の無作為抽出は市内地番からランダムに取り出し、ご郵送にてお届けしました。市民討議会のような目的で、住民基本台帳を用いて無作為抽出を行うことに関してどう思われますか？

- 1 妥当な目的だと思う 23人
- 2 住民基本台帳は使用すべきでない 3人

b) 前問で2「使用すべきでない」とお答えの方におたずねします。

その理由をお聞かせください。

- 個人情報のもれを招くのでは？
- プライバシーの程度にもよるが、あまり台帳が詳細であるなら、利用しない方がよい。
- 住居台帳の閲覧が自由にできることになるとは好ましくない。

14. 今後「市民討議会」で取り上げてほしいテーマは何ですか？

- 受動喫煙防止について
- 震災で避難されている方との交流について
- 日本語について(英語の公用化など)
- 立川は広いですので、皆が住みやすくしてほしいと感じました。
- 西砂町の方はまだまだ不便をいろいろな面でしいられています。道路の面、買い物(スーパー)など、ちょっと足りないものがないか、かえなくて不便をかんじています。
- 市民生活改善に関すること。(保育園・病院・学校・図書館)
- 青少年教育。
- 税の使途。
- 防災対策。
- 立川市泉町周辺の国有地の有効活用について。
- 立川市内のスポーツ施設の充実について。
- 立川市内の文化・芸術施設の充実について。
- 都市計画。
- 道路計画(生活道路を含めて)。
- 高齢化社会。
- 地域住民とのふれあい。
- 災害時の近隣助け合い。
- アニメ・ツーリズム。
- ゴミ処理問題。
- 立川断層・クライシスマネジメント
- 人の集まる商店街を作れないか。大型店だけではなく。
- 昭和記念公園でのイベントを増やすアイデア企画について。
- 立川競輪場来場者のマナー指導の適切な方法について。
- 情報の正しさ、出し方。
- 市活性化。

- 財政。
- 他市連携事業。
- 学校教育。
- 騒音。
- ゴミ問題。
- 立川自治基本条例の制定について。
- 市民にできること、市がやるべきことを考える。
- 環境問題全般への市民の取り組み。
- 自治会組織。
- 高齢化に向けたやさしいまちづくり。
- 市の文化施設問題。
- 高齢化対策について。
- バス利用の促進のためにやるべきこと。
- 生活道路・裏通りの徹底した見直しについて。

15. ご意見やご要望がありましたらお聞かせください。

- もっとグローバルに(性別・年齢等)人数調整をしてほしいです。学生限定とかあると面白そう。
- 進行時間表は配布すべきでは?
スタッフの名札が無いのは又服装も(イベントスタッフです方 か?)
進行方法にもう少し工夫を(場所の選定、スタッフ態度)
- 今後、機会があればまた参加したい。
- 実費支給でよい。
- 討議テーマについてもっと具体的になるようにした方がよいのではないか。
- 全く知らない方達との出会いだけでも幸せに思います。
- 情報提供者の説明時間が長かった。もう少し参加者討議時間がほしかった。

- 重要な選挙の直前に実施すべき。
過去の同じテーマで開催するなら継続して取り組みたい。
- 提供される情報と討議のテーマに一貫性が欠如。情報提供者はフルネームで名乗るべき。
- 本日は、有意義な討議会に参加させていただき有難うございました。
今後また機会があったら、積極的に参加したいです。
- 本当に正しい情報かどうかの検討が大切だと感じた。
- 本企画・有益で良い取り組みと思います。
- 地域住民高齢化でいろいろな問題が起きている。活性化施策について知りたい。
- 今回の結果についてフィードバックしてもらいたい。
当日のスケジュールも文書で配布した方が良い。
- 最後に懇親会があればなお良し。ビール・ワインなどもあればさらに良し。
市民同士の触れ合いの場にもなるのでお勧めです。
- 自分が高齢者の仲間入りするにあたり、今後も住み続ける立川市が、よりくらしやすい街になるよう望んでいます。
- 出席者にもう少し若い人が参加できると良いと思います。抽選なので仕方がないと思いますが。

wellvoice

たちかわ市民討議会

ランダムに選ばれたフツの市民で考える
「もっと住みやすい」まちへの新しい試み。



参加者大募集!!

市民の皆様にお願ひ!

市内にお住まいの皆様より無作為に5000世帯をお選びし、個別にご案内をお送りいたします。

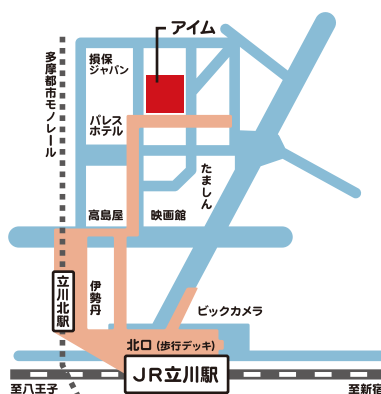
もしご案内が届きましたら、ぜひともご応募いただければ幸いです。
「wellvoiceたちかわ市民討議会」は、市民の知恵や感覚を行政などに反映させる新しい民主主義の形をつくる、はじめの第一歩です。
皆様のご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



9月11日

10:00~16:30

立川市女性総合センター アイム5階 第3学習室



〒190-0012 東京都立川市曙町2-36-2 TEL.042-528-6801



市民の意見で

「まち」を変えよう!

まちが抱えるテーマについて、話をしてみませんか!? あなたの声をまちづくりに活かすチャンスです!!

さあ、次はあなたの出番です!

詳細は裏面を
ご覧ください。

主催：社団法人 立川青年会議所 後援：立川市

お問合せ先：社団法人 立川青年会議所 事務局 〒190-0012 立川市曙町2-38-5 立川ビジネスセンタービル12F
TEL:042-527-1001 FAX:042-527-6600 Mail:info@tachikawajc.or.jp URL:www.tachikawajc.or.jp

今回の討議テーマ

自転車をいかしたまちづくり!を 考えてみませんか?



「立川って活気あるよね!」「人が増えたね」こんな声をよく耳にします。多摩地域における立川駅のハブ化や駅前の大型商業施設を見るにつけ、確かにたちかわの躍進は顕著です。しかし一方で、賑わいが駅周辺に限定され、そこへと集まる週末の渋滞、或いは旧来の商店街の活気は失われつつある気がします。

たちかわ全体として、もっと空間的な広がりや回遊性を高める視点からまちづくりを考えてみませんか?そこで、今回着目したのが皆さんがよくご存知の「自転車」なんです!自転車をいかして、もっと「楽しく・住みやすい」たちかわをどうやってデザインできるか、いっしょに話をしてみませんか?

市民討議会とは?

近年は国や自治体の計画・条例策定に市民の意見を取り入れる機会が増えてきましたが、その多くでは公募型の審議会や委員会などにおいて関係者や専門家などの特定の市民が意見を述べているのが実状です。しかし、会社に勤め、家事をし、子どもを育て、趣味を楽しむ、そんなごく普通の生活をするみなさんの声こそ、本当の市民・社会の声、としてもっと行政に届け、活かしていくべきではないでしょうか。

ドイツには「プラークンクスツェレ」という市民参画による討議システムがあり、利害が複雑に絡む地域問題の解決などに大きな効果をもたらしています。市民討議会はこの「プラークンクスツェレ」を日本向けにアレンジし、社会に定着させる試みで、地域や社会が抱える問題を住民が共有して考えるきっかけとなり、社会参画意識の向上、地域社会の再生の足がかりになるものと考えています。

より多く、幅広く市民のみなさんのご意見を伺う市民参画の新たなツールとして、立川青年会議所では「wellvoice たちかわ市民討議会」を地域社会に定着させていきたいと考えております。

ぜひ、みなさんの声をおきかせください。

市民討議会の特徴

- 参加者の無作為抽出
市民の中から無作為に抽出された世帯に案内状をお送りし、希望者を募ります。
- 参加者の有償性
無作為抽出により討議会に参加された方には、参加の手当ならびに当日の食事が支給されます。
- 専門家による情報提供
討議の前にそれぞれのテーマについて、行政をはじめ専門家を招き、意見ならびに情報提供を受けます。情報の操作性をさげ、異なった意見を聞けるよう複数からの意見を伺います。
- 討議報告書の公表
討議の結果はそのつど市民に対し行政関連機関・マスコミなどを通して公表します。



これまでの開催実績

「市議会と市民のかかわり」(2006年)「駅前デッキと路上演奏・パフォーマンス」・「ご近所のチカラ、求ム。」(2007年)「一教育—子ども達の未来を考えてみませんか?」(2008年)をテーマにこの立川で開催されました。またこの他、お隣の国立や武蔵村山でも行われております。過去の報告書はこちらからご覧いただけます。
(社)立川青年会議所ホームページ内
<http://www.tachikawajc.or.jp/2011/wellvoice.html>

全国に目を向ければ、この「市民討議会」という手法も、青年会議所主催や行政との共催など2010年末時点で150例を超え、新しい「しくみ」として各地で広がりを見せています。



傍聴・見学もできます

当日のディスカッションの様態を傍聴見学されたい方の受付も行います。詳しくは下記までお問い合わせください。

※傍聴・見学の方は、ディスカッションに直接加わることはできません。あらかじめご了承ください。

主催：社団法人 立川青年会議所 後援：立川市

お問合せ先：社団法人 立川青年会議所 事務局 〒190-0012 立川市曙町2-38-5 立川ビジネスセンタービル12F
TEL:042-527-1001 FAX:042-527-6600 Mail:info@tachikawajc.or.jp URL:www.tachikawajc.or.jp

市内ご在住の皆様へ

社団法人立川青年会議所

理事長 松浦 孝治

まちのかたち創造委員会 委員長 宇都木 健太

wellvoice たちかわ市民討議会 参加のご案内

残暑の候、皆様におかれましてはご健勝の事と存じます。突然のご案内を差し上げること無礼をお許しください。

社団法人立川青年会議所では、市民自らがまちの暮らしを創造していく地域社会を目指し、地域をはじめとする社会問題の解決に取り組んでいく“市民の社会参画”をテーマに、今回市内ご在住の世帯を対象とする「wellvoice たちかわ市民討議会」を開催いたします。

この事業は、市内在住世帯より「無作為に抽出」した皆様から参加を募り、様々な世代・職業の方で地域や社会の問題についてのディスカッションを行い、得られた合意を行政・地域に提言していくものとなります。

日常の暮らしの中、地域・行政との接点が少なく、問題意識をもちながらもこれまで地域の取り組みに積極的に参画するまでには…という市民の方は多いと思います。こうした皆様を「受け手」のままにせず、もっと多くの市民の豊かな知恵と経験を引き出し、地域に反映させることは、幅広く多様なニーズに対応した行政サービスの提供を可能にするとともに、地域の皆さんが実感し、参画意欲をさらに高める上で、重要なことと考えております。

立川青年会議所では、2006年「wellvoice たちかわ市民討議会」として立川市において開催以来、これまでに4回行っています。また、都内の他地域、国分寺市・多摩市・日野市・町田市・三鷹市・調布市・青梅市・千代田区・江東区・葛飾区などにおいても、各地域の青年会議所主催、行政との共催により実施されています。立川青年会議所では、地域の課題などに対して「普通」の市民が抱く意識を広くくみとり、さらに地域社会への参画へと導く機会として、この「wellvoice」を多様な市民参画方法の一つとして、提案、実施していきたいと考えます。

- 主催 社団法人 立川青年会議所 ■後援 立川市
■日時 9月11日(日) 10:00~16:30
■会場 立川市女性総合センターアイム5階 第3学習室
■テーマ 自転車をいかしたまちづくり

「たちかわって活気あるよね」「人が増えたね」こんな声をよく耳にします。確かに、多摩地域における立川駅のハブ化、駅前の大型商業施設を見るにつけ、近年のたちかわの躍進は顕著です。しかし一方で、賑わいが駅周辺に限定され、そこへと集まる週末の渋滞、或いは旧来の商店街の賑わいが失われつつある気がします。たちかわ全体としてもっと空間的な広がりや回遊性を高めるといった視点からまちづくりを考えてみませんか？

そこで今回着目したのが皆さんよくご存知の「自転車」なんです！

「自転車」と聞けば、誰もが知っている身近な乗り物ですが、改めてその役割を色々な視点から考え、「楽しく・住みやすく・安心して」暮らせるまちづくりのために、どうやって自転車を積極的に活用できるか、いっしょに話をしてみませんか？

- 1) 「自転車」って、そもそも“いいもの？” “わるいもの？”
- 2) 自転車をもっと有効に活用できないか？アイデア求む！

*同封のチラシもあわせてご覧ください *小テーマ名称・内容については変更の可能性があります。

■募集人数 30名 (5名×6グループ) *先着登録順となります。定員に達し次第終了となります。

■申込方法 同封のハガキまたはFAXにてご返信ください。

***郵送：8月31日到着分・返信分まで**

今回のご案内投函の経緯について

「wellvoice たちかわ市民討議会」の参加者募集に際して、無作為に抽出した 5,000 世帯の皆様にて本ご案内をお届けしております。

突然のお手紙に、ご迷惑等お掛けすることも多々あるかとおもいますが、何卒ご理解の上、ご家族の中より **18 歳以上の1名の方**に、今回の討議会にご参加いただければ幸いです。

当日の討議方法について

今回は先着順に 30 名の参加者を募集いたします。5 名ずつのグループに分かれ、2 つの小テーマに分け、各グループでディスカッションを行います。

名前こそ「討議」とありますが決して堅くならず、アットホームな雰囲気でお話をしていただけるような設営を致しますので、どうぞお気軽にご参加ください。

「テーマについての知識がいるのでは・・・？」と思われる方へ

テーマについての事前知識がなくても大丈夫です。「wellvoice」は皆様がそれぞれのテーマについて勉強ができる場でもあります。予めテーマについての情報提供をさせていただきますし、わからないこと、ちょっと違った方向へそれたと感じた場合、討議が進まない事等があるときはスタッフがサポートいたします。

謝礼について

皆様の貴重なお時間をお借りして行う討議会ですので、文字通りそのお礼としての意味合いがあります。それと、討議の結果を行政を始めとする関係機関へ提言したり、マスコミなどを通じて公表させて頂く上で、皆様に楽しみながらも真剣に討議して頂くための参加報酬という目的でお支払しております。ですので、意見をドシドシ出して頂き、活発な討議になるようご協力をお願いします。

(・・・討議にご参加の方には、謝礼の受け渡しとして領収書に判子を押して頂きますので、当日ご持参ください。)

傍聴ご希望の方は・・・

例えば、興味はあるけれどディスカッションに参加する自信はないなぁ・・・という方は、傍聴ができます！！

傍聴者は直接討議に加わることはできません。また、会場の広さの都合上、別室での傍聴とさせていただく場合がございます。

悪しからずご了承ください。事前に傍聴を希望される方は同封のハガキ若しくは FAX にてお申込みください。

最後に

明るく楽しいディスカッションを目指しております。市民参画の試みである「wellvoice」を活用し、市民自らが「まち」のことを考え、「楽しく・住みやすく・安心して」暮らせるたちかわを創造していくためにも、ぜひとも皆様のご参加をお待ちしております。

郵便はがき



料金受取人払郵便



差出有効期間
平成23年8月31日
まで(切手不要)

1 9 0 8 7 9 0

2 3 7

立川市曙町2-38-5

立川ビジネスセンタービル12階

社団法人 立川青年会議所

wellvoice たちかわ市民討議会係 行

9月11日 回 wellvoice
たちかわ市民討議会に、

参加・不参加・傍聴のいずれかに○をおつけください

参加します

参加しません

傍聴します

8月31日必着にて
ご投函ください!

* お差し支えなければ、理由をお書きください。
今後の事業開催の参考にさせていただきたいと存じます。

ご氏名

性 別 男 ・ 女 年 齢 歳

ご住所

お電話 ()

E-Mail

wellvoice たちかわ市民討議会
参加ご回答書

参加・不参加・傍聴 のいずれかに○印をおつけください

9月11日(日) wellvoice たちかわ市民討議会に

参加します

FAX 締切:8/31(水)まで

参加しません

傍聴します

※お差し支えなければ、理由をお聞かせください。今後の事業開催の参考にしたいと存じます。

ご氏名 _____

性 別 男・女 年 齢 _____ 歳

ご住所 _____

お電話 () _____

E-Mail _____

FAX 送信先

社団法人立川青年会議所 事務局 042-527-6600

※当日までに確認のご連絡を差し上げる場合があります。あしからずご了承ください。

ご参加の皆様へ

wellvoive たちかわ市民討議会 当日のご案内

平成 23 年 9 月 吉日

社団法人 立川青年会議所

まちのかたち創造委員会

委員長 宇都木健太

拝啓 残暑の中にも少しずつ秋を感じるようになりました。

この度は、「wellvoive たちかわ市民討議会」にご応募いただきましてまことにありがとうございます。ここに当日のご案内をお知らせ致しますので、予めご一読頂き「wellvoive たちかわ市民討議会」にご出席くださいますようお願い申し上げます。

敬具

日時：2011 年 9 月 11 日 日曜日 9:30 受付開始 10:00 開会 16:00 解散予定

場所：立川女性総合センターアイム 5F 第 3 学習室

(東京都立川市曙町 2 丁目 36-2)

【持ち物】

- 本状 (wellvoive たちかわ市民討議会 当日のご案内)
- 身分証明書 (免許証・保険証などお名前の明記されているものをご持参ください。
受付にてご本人様確認をさせていただきます)
- 印鑑 (謝礼金をお支払いする際、領収書を頂きます。用紙はこちらで用意いたしますので認印で結構ですでお持ちください。)
- 筆記用具

【注意事項】

- 必ず午前、午後通してのご参加、時間厳守をお願い致します。
- 駐車場は確保致しかねますので出来る限り公共機関や自転車をご利用ください。
- 昼食はこちらでご用意致します。
- 当日は広報、記録用に討議の様子を写真撮影させていただきます。不都合のある方は事前にお申し出ください。

【謝礼について】

- 「wellvoive たちかわ市民討議会」終了後、現金にてお渡しいたします。
- 金額は¥3000- です。

* 申し訳ございませんが遅刻・早退の場合はお支払い出来ませんので、予めご了承ください。

では、当日お会いできるのを楽しみにしております。

wellvoice

たちかわ市民討議会

2011年 9月 11日

主催：社団法人 立川青年会議所

まちのかたち創造委員会

後援：立川市

会場：立川市女性総合センターアイム5階 第3学習室

氏名	討議グループ	
	午前	
	午後	

ご挨拶

社団法人立川青年会議所
理事長 松浦 孝治
まちのかたち創造委員会
委員長 宇都木 健太

本日はご多忙の中「wellvoice たちかわ市民討議会」にご参加いただき、ありがとうございます。
地方分権が進む昨今、国や地方自治体でつくられる計画や条例などにおいて、市民の意見を取り入れる機会が増えてきました。しかし、その手法は、公募型の審議会や委員会などが主であり、そこで意見を述べているのは関係者や専門家などの特定の市民であるのが実状ではないでしょうか。
普段会社に勤め、家事を行い、子どもを育て、学校に通い、趣味にいそしむ、そんなごく普通の生活をするみなさんの声こそが本当の市民の声、社会の声として、行政に届け、活かしていくべく声ではないでしょうか。

(社)立川青年会議所では、より多くの、幅広く市民のみなさんのご意見を伺う市民参画の手法として、「wellvoice 市民討議会」を開催し、社会に定着させたいと考えております。ぜひ、みなさんの声をおきかせください。

本日もご参加いただきました皆様が楽しみながら、かつ有意義な時間を過ごせるよう、プログラムには様々な工夫を凝らしました。
新しい試みであり、不慣れから至らぬ点多々あるかと思いますが、どうぞ最後までお付き合いください。宜しくお願いいたします。

市民討議会とは

住民基本台帳などから無作為に選んだ市民に「あるテーマ」に関する客観的な情報提供を行い、さらに5人程度のグループで議論した後に意見の集約と投票を行い、その結果を一般市民の意見として行政、関係機関、マスコミ等に提出・公表していくものです。従来の公募型市民会議やパブリックコメントなどの仕組みでは拾い上げられなかった「サイレントマジョリティー（声無き多数派）」の意見を聞く仕組みとして、また従来の世論調査では得られなかった「よく考えられた」意見を聞く新しいスタイルとして、全国各地で注目されています。

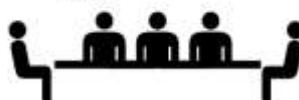
従来の公募型市民会議
結果的に一部の個人・団体の声しか
得られない



世論調査
無作為抽出であるが、人々がよく
考えた声ではない



市民討議会
無作為抽出によって選ばれた人々が、
行政や利益団体の声を聞いた上で議
論を行い、意見を形成する。一般市
民によって熟慮された声を得ること
ができる



市民討議会の結論の出し方 (写真はイメージです)



STEP1

講師(情報提供者)から情報と知識を得ます。



STEP2

小グループに分かれて討議を行います。



STEP3

各グループより意見の発表を行います。



STEP4

全体での投票により、意見の傾向を把握します。

市民討議会のねらい・活用について

本日の「wellvoice たちかわ市民討議会」で皆様にディスカッションいただいた結果をもとに、市民の声として報告書を作成の上で各方面に配布し、行政、メディア、そして地域の皆様にその「声」を届けて行きます。

討議会のルールと概略

■ 全体のルール

- 1 会場並びに施設内は禁煙です。喫煙は休憩時間中に指定の喫煙場所をお願いします。
- 2 情報提供や討議の間は、携帯電話やメールのご利用はご遠慮ください。
- 3 討議中のパソコン使用や個人による録音、カメラ・ビデオ撮影は、原則としてご遠慮ください。
- 4 昼食ならびに討議中のお飲物はこちらで用意いたします。
- 5 このハンドブックは回収しませんのでご自由にお持ちください。
- 6 お互いは「さん」づけでお呼びください。

■ グループ討議のルール

- 1 討議されるみなさんが気軽に話しやすい雰囲気を作るため、討議者・情報提供者および運営スタッフを除き、原則として討議中の入室を制限します。(ただし、主催者側の判断により関係者やメディアの方々が入室することがあります。)
- 2 報告・提言資料作成、ならびに次回以降開催における PR 等のため、運営スタッフが討議の風景をカメラ・ビデオなどで撮影する場合があります。
- 3 小グループにおけるリーダーは参加される皆様一人ひとりです。積極的な発言をお待ちしております。なお、他の意見に対する批判を超えるような誹謗中傷はおやめいただきますようお願い致します。
- 4 皆様がディスカッションしやすい環境をつくりことを第一に考えております。何かお困りの点がありましたら近くのスタッフまでお申し付けください。

【本日のテーマ】

自転車をいかしたまちづくりを考えてみませんか？

■ 背景

「たちかわって活気あるよね」「人が増えたね」こんな声をよく耳にします。確かに、多摩地域における立川駅のハブ化、駅前の大型商業施設を見るにつけ、近年のたちかわの躍進は顕著です。しかし一方で、賑わいが駅周辺に限定され、そこへと集まる週末の渋滞、或いは旧来の商店街の賑わいが失われつつある気がします。たちかわ全体としてもっと空間的な広がりや回遊性を高めるという視点からまちづくりを考えてみませんか？

そこで今回着目したのが皆さんよくご存知の「自転車」なんです！

「自転車」と聞けば、誰もが知っている身近な乗り物ですが、改めてその役割を色々な視点から考え、「楽しく・住みやすく・安心して」暮らせるまちづくりのために、どうやって自転車を積極的に活用できるか、いっしょに話をしてみませんか？

■ 小グループ討議

グループで自由に話し合い、3つ以内で意見をまとめてください。これとは別にぜひとも残したい意見（付帯意見）がある場合は1つ、指定の欄にご記入ください。

机上の付箋はご自由にお使いください。

■ 発表と投票

各グループの代表者から、グループ討議より集約された意見を発表してください。

最後に、全体で投票を行います。一人あたり5票が割り当てられます。

また、他グループから出された「これは！」意見にも投票できます。

多くの票を得たアイデアほど、多数の人々の共感を得られた意見として提示されます。

DISCUSSION 1(第1討議テーマ)

○「自転車」って、そもそも“いいもの？”“わるいもの？”

補助輪を外し始めて自転車に乗れたあの喜びは、幼少期の大きな思い出の1つではないでしょうか？自転車は、そんな頃から何十年と身近な乗り物として私たちの日常生活の中にあります。しかし、一方で身近な交通手段として使われる自転車の役割は、時代の流れとともに大きく見直されています。

第1討議では、「自転車をいかしたまちづくり」を考える前に、改めて、そもそも自転車ってどんな特徴や役割があるのだろうか？自転車そのものについて、或いは、自転車を利用することで生ずるメリット・デメリットって何でしょう？？について考えてみたいと思います。

「自転車」と言っても、色々な角度から見てみることはできませんか。
例えば、あなたはどんな理由で自転車を利用しますか？ どんな理由で自転車を利用しませんか？

【情報提供】

- ① 立川市都市整備部交通対策課 野澤課長
- ② 株式会社 住信基礎研究所 研究理事 古倉 宗治氏

DISCUSSION 2(第2討議テーマ)

○自転車をもっと有効に活用できないか？アイデア求む！

これまでも自転車利用については、国やそれぞれの市区町村で取り組みがなされてきました。しかし、それは交通安全に重点をおいた検討が多かったり、走行空間や駐輪場の確保といったハード面の対応を中心とする関連施設や、放置自転車への対応という問題に対する施策が多かったように思われます。

第2討議では、これから立川市がもっと「楽しく・住みやすく・安心して」暮らせるまちにするために、自転車を有効に活用できないか考えてみたいと思います。

【情報提供】

- ① 立川市都市整備部交通対策課 野澤課長
- ② NPO法人スマイル 代表理事 村上 英徳氏
- ③ 株式会社 住信基礎研究所 研究理事 古倉 宗治氏

情報提供者ご紹介

○古倉 宗治(こくら むねはる)氏

- 建設省、東京工業大学助教授、(財)民間都市開発推進機構都市研究センター、(財)土地総合研究所等を経て、2008年から(株)住信基礎研究所研究理事。
- 京都大学大学院客員教授(公共政策大学院及び同法科大学院)並びに麗澤大学経済学部、首都大学東京等の講師。
- 国土交通省「都市交通としての自転車利用活用推進研究会」、奈良県「奈良県自転車利用促進方策検討会」、宇都宮市「自転車のまちそう推進計画策定懇談会」等の委員。

自転車の総合的体系的な利用促進策、放置問題の新たな発想による解決策や自転車の交通政策などを手がけるほか、街づくりに関する法制的な規制、都市環境における環境共生のあり方、景観、土壌汚染など都市計画・都市環境分野で国、地方公共団体、民間等からの調査研究を行ってきた。

2004年に、自転車のソフト面の利用促進策に関する研究で学位(博士(工学))を取得。

著書に「成功する自転車まちづくり」(学芸出版社・単著)、「欧米先進国にみる自転車政策の高度な取り組み」(サイカパーキング・単著)、「自転車先進国における新たな自転車政策の展開」(サイカパーキング・単著)、「自転車利用促進のためのソフト施策」(ぎょうせい・単著)、「自転車市民権宣言」(リサイクル文化社・共著)、「自転車交通の計画とデザイン」(地域科学研究会・共著)などがある。専門は、内外の自転車政策・自転車計画、まちづくり法制、都市計画法制度など

○村上 英徳(むらかみ ひでのり)氏

NPO 法人スマイル 代表理事

1962年生まれ。

1998年 放置自転車の無料レンタサイクル実験開催(立川 JC)

2008年 環境問題を主眼として自転車を介したまちづくり NPO 設立

2009年 第2次自転車総合計画策定市民会議に委員として参加

(スマイルタクシーについて)

東京都・立川市発のオリジナルな国産自転車として、2008年に誕生しました。

行政や警察、関係諸団体のご協力を得て、現在、立川市内を中心に3台の運行をしています。

クラシックカーを模した粋なデザインと、排ガスを出さないエコな車両は、子ども達から高齢者、地元の方から、観光客まで、皆さんの身近な足として親しまれています。

いま日本全土で、高齢化・環境破壊・地域コミュニティーの崩壊など様々な問題が深刻化しています。

そして、街からは笑顔や活気が少なくなっているように思われます。

スマイルタクシーは、街に住むひと・訪れるひとが心から生き活きと出来ようような「まちづくり」を目指して、その一役を担えればと考えています。(スマイルタクシーホームページより抜粋)

交通手段としてだけでなく、雇用の創出など福祉的な役割も担い、地域の活性化に貢献しています

2011年12月9日 発行

編集 社団法人立川青年会議所
まちのかたち創造委員会
委員長 宇都木健太
副委員長 長泉 寛太
幹事 関根 渉
委員 伊藤 秀則
上野 真裕
小池 護
坂本 充弘
佐桑 孝二
杉田 光輝
田中 健一
田邊 智哉
新田 晃一
浜中 俊一
原島 僚喜
吉田 裕史
副理事長 北島 宏晃

発行 社団法人立川青年会議所
東京都立川市曙町 2-38-5
立川ビジネスセンタービル 12階
TEL042-527-1001 FAX042-527-6600
URL <http://www.tachikawajc.or.jp>
E-MAIL info@tachikawajc.or.jp